

■実忠 僧。良弁の弟子。東大寺造営で絶頂直後に悲劇となるが、晩年復帰し、二十九ヶ条の業績の記録が残る。

じっちゅう
行基山崎橋・ 726＝ 生。出自は不明。

長屋王の変・ 729＝ 3歳：

真備玄昉帰国 735＝ 9歳：

藤原四卿没・ 737＝11歳：

・ ・ ・ ・ ・ 744＝ 18歳：

大仏開眼・ ・ 752＝26歳：
・ ・ ・ ・ ・ 753＝27歳：

聖武天皇没・ 756＝30歳：

東大寺や良弁との関係がいつ始まったかは明らかでないが、

光明皇后没・ 760＝34歳： 東大寺別当・大僧都を兼任していた良弁の目代となり、
良弁に命じられて、大仏完成後も担当者らができずにいた大光背の製作を請負い、完成させる。

新羅征討計画 762＝36歳：

恵美押勝の乱 764＝38歳： 東大寺修二会(お水とり)を創始、
東大寺東塔に露盤上げることに成功。 藤原仲麻呂の乱が起こると、東大寺はあげて孝謙天皇・道鏡方につ
いたが、自身の名で軍馬の芻を献上したという。また、乱後に行なわれた西大寺や西隆寺等の建立事業にも
深く関与したと思われる。目代から少鎮となる。

道鏡法王・ ・ 766＝40歳： 少鎮から鎮となる。三綱の上に置かれたもので、当時の上司には、有能な実務派の僧中鎮平栄がおり、こ
の時点での僧位は修学進守大法師で、東大寺内では、良弁・平栄につぐ地位にあった。

宇佐八幡神託 769＝43歳：

称徳天皇没・ 770＝44歳： 翌年にかけて、東大寺出納に従う。

東大寺完成・ 771＝45歳： *佐伯今毛人すら辞退した困難な大仏殿の柱の補強工事を指揮して完成。

山部立太子・ 773＝47歳： 良弁が死去して、

・ ・ ・ ・ ・ 774＝48歳： 寺主となり、

・ ・ ・ ・ ・ 778＝52歳： この年までつとめる。
この頃から、実忠の弟子という早良親王が、東大寺の運営に大きな力を発揮し始め、

蝦夷大反乱・ 780＝54歳：

桓武天皇即位 781＝55歳： 早良親王は皇太子となる。遷都問題が具体化していくなかで、反対派の東大寺が皇太子にかけた期待は
大きかったが、

・ ・ ・ ・ ・ 783＝57歳： *等定の別当就任以後は状況が悪化し、実忠は一切の実務を離れ、

藤原種継暗殺 785＝59歳： 早良親王配流・憤死となって、

・ ・ ・ ・ ・ 789＝63歳： 造東大寺司さえ廃止されてしまう。

平安京遷都・ 794＝68歳： *遷都問題が一段落すると再び東大寺の中枢にもどり、
2度にわたって華嚴供大学頭となり、3度上座を務め、さらに造東大寺司の後身造寺務所にも関与して、東
大寺の修理・造営を一手にひきうけている。

・ ・ ・ ・ ・ 798＝72歳：

蝦夷地平定・ 801＝75歳： 大仏の背部の損傷と左手の脱落を修理。

桓武天皇没・ 806＝80歳：

伊予親王の変 807＝81歳： 東大寺上座兼知事として出納を検した。

嵯峨天皇即位 809＝83歳： *「東大寺地換地記」には修理別当とある。 齢すでに80歳をこえた実忠にこのような役が与えられたことは、
長い東大寺での実績を物語っているといえよう。また、今に伝わる二月堂の十一面悔過は、実忠によって
創始されたという。

没年不明。

古代の人物3「平城京の落日」、平凡社百科事典、